

平成十年七月二十一日受領
答弁第六一號

内閣衆質一四二第六一號

平成十年七月二十一日

内閣総理大臣 橋本龍太郎

衆議院議長 伊藤宗一郎殿

衆議院議員中村鋭一君提出中華人民共和国ベチューン医科大学病院に対する政府開発援助に関する質問に
対し、別紙答弁書を送付する。

衆議院議員中村鋭一君提出中華人民共和国ベチューン医科大学病院に対する政府開発援助に関する質問に対する答弁書

一の1について

中華人民共和国（以下「中国」という。）のベチューン医科大学に対する無償資金協力であるベチューン医科大学機材整備計画については、平成元年十月に、中国対外経済貿易部（現在の対外貿易経済合作部）から我が国政府に対し、正式な要請があった。

無償資金協力については、我が国においては、「外交政策上の経済協力に関すること」（外務省設置法（昭和二十六年法律第二百八十三号）第四条第三十一号）を所掌事務とする外務省が所掌しており、同省においては、「経済協力に関する協定に関すること」（外務省組織令（昭和二十七年政令第三百八十五号）第十二条第一号）を所掌事務とする経済協力局が所掌している。また、中国においては、行政組織に関する中国の資料によれば、対外経済貿易部国際連絡司（現在の対外貿易経済合作部国際経貿関係司）が、我が国からの無償資金協力を含む二国間無償援助の受入れに関する政策について所掌している。これらの点は、御指摘の無償資金協力についても同様である。

一の 2 及び 3 について

中国側からの正式な要請を受け、国際協力事業団が、外務省の指示に基づき、平成元年十二月に、本件計画の背景及び内容の確認等のための事前調査団を、平成二年四月に、本件計画に関する基本設計、概算事業費の積算等に係る調査のための基本設計調査団を、同年八月に、その基本設計調査を踏まえて作成された計画案の概要を説明し、中国側関係機関との間で同案の内容について基本的な合意を得るための基本設計概要説明調査団をそれぞれ中国に派遣し、必要な協議及び調査を行った。

各調査団の日程並びに団員及び面談者の氏名及び肩書については、別添資料の国際協力事業団の事前調査報告書及び基本設計調査報告書の各関連部分のとおりである。

一の 4 について

橋本内閣総理大臣から、御指摘の無償資金協力について政府機関に対して指示があったという記録はない。

一の 5 及び 6 について

御指摘の無償資金協力に係る中国側からの我が国政府に対する要請及び我が国政府機関又は国際協力事

業団による交渉、調査、視察等の場に橋本内閣総理大臣が出席した事実はない。

なお、橋本内閣総理大臣の記憶によれば、自由民主党幹事長代理であった昭和六十三年八月に中国を訪問しており、その際、ベチューン医科大学を訪問しているとのことである。橋本内閣総理大臣の記憶によれば、右訪中は中国衛生部の招待であったのではないかとのことであり、また、その際、ベチューン医科大学に対する協力について意見交換がなされたことがあるとのことである。

一の7について

無償資金協力の所掌については、一の1について述べたとおりである。

御指摘の無償資金協力については、外務省の指示に基づき、国際協力事業団による基本設計調査が実施され、外務省は、同調査による基本設計を妥当と判断し、平成二年十一月、外務大臣から、同基本設計に基づく無償資金協力に係る取極の締結に関する閣議請議が行われ、内閣として閣議決定を行った。

二の1及び2について

我が国の無償資金協力に係る生産物及び役務の購入については、通常、被援助国政府が一般競争入札方式により日本国民（日本国の自然人又はその支配する日本国の法人をいう。）と契約を締結することとし

ている。

御指摘の無償資金協力についても、一般競争入札を経て、伊藤忠商事株式会社が受注したものである。

二の3及び4について

我が国の無償資金協力に係る生産物及び役務の購入について被援助国政府との間で契約を締結した者により調達される個々の生産物及び役務の名称、価格及び調達先については、被援助国政府と当該契約者と具体的な契約及び当該契約者と調達先との具体的な契約に関する事項であり、直接の契約当事者でない我が国政府がこれらを公表することは適切ではなく、答弁を差し控えたい。

二の5について

中国政府から本件無償資金協力の正式な要請があった平成元年及び本件無償資金協力に係る取極が締結された平成二年について確認したところ、当時の政治資金規正法（昭和二十三年法律第九十四号）第十九条の七第一項の規定により提出されたこれらの年に係る保有金の収支報告書の要旨を公表した官報には、橋本龍太郎衆議院議員の保有金の収支報告書の記載はなく（保有金の収支報告書は、寄附を受けた年において、その年において受けた寄附に係る金銭等の全部を自己の指定団体に寄附した場合には、提出の

義務はない。）、当時の政治資金規正法第十二条第一項の規定による同議員の指定団体の収支報告書の要旨（平成二年九月十四日付け官報及び平成三年九月六日付け官報）にも御指摘の献金又はパーティー券の購入に係る記載はない。

また、公職選挙法（昭和二十五年法律第百号）第百八十九条の規定による同議員の平成二年の衆議院議員総選挙に係る選挙運動費用収支報告書の要旨（平成二年五月二十九日付け岡山県公報）にも御指摘の献金又はパーティー券の購入に係る記載はない。

三の1について

平成元年（千九百八十九年）六月のいわゆる天安門事件後、中国情勢の流動化、渡航自粛勧告等により、円借款を含む協力案件の多くは事実上の中断状況に置かれた。

その後、平成二年（千九百九十年）一月に戒厳令が解除され、中国情勢の安定化が見られるとともに、同月十六日に来日した鄒家華國務委員が、当時の海部内閣総理大臣ほか我が国要人に対し第三次円借款を進めるよう要請し、同月十八日には、平成二年度の新規の案件に関する意見交換を行うべく、外務省の経済協力局長が中国に派遣された。また、中国側が改革、開放政策を継続する姿勢を示し、経済面におい

て、対外関係の改善のための努力を示す動きを見せたことにかんがみ、経済企画庁、外務省、大蔵省及び通商産業省の四省庁が協議の上、同年七月のヒューストン・サミットの際に、海部内閣総理大臣から、第三次円借款を徐々に進めていくとの考え方を表明し、サミット参加国の理解を得た。

こうした経緯を経て、同年七月三十日から八月一日までの間、中国に政府調査団を派遣した上、同年十一月に第三次円借款の初年度である平成二年度第一回分の供与に係る取極を中国政府と締結することにつき閣議決定した。また、海部内閣総理大臣は、平成三年八月の訪中の際に、中国の改革、開放政策に基づく近代化努力に対しできる限りの協力を行うとの方針が不変であることを表明した。

三の 2 について

三の 1 について述べたとおり、平成二年（千九百九十年）一月に戒厳令が解除され、中国情勢の安定化が見られたこと、また、同月に鄒家華國務委員が来日し、外務省の経済協力局長も中国に派遣されたこと等の動きがあり、こうした流れを受けて、同年四月九日の衆議院予算委員会において、藤田高敏議員の質問に対し、当時の中山外務大臣が「現在、九〇年度の新規の案件に関する予備的準備行為として事前調査を進めておるような段階でございます。先般も経済協力局長を北京に派遣をいたしました。事務的

な調査も始めておる、このような状況でございます。一日も早く日中間の健全な関係が回復することを私どもも期待をいたしておるものでございます。」と発言した後、当時の橋本大蔵大臣が「第三次円借款の中において、幾つかの条件はありながら、日本として考えてもいい時期に参っておると思います。」と発言している。

また、橋本大蔵大臣は、同年五月三日、ニュー・デリーにおける第二十三回アジア開発銀行年次総会での総務演説において、「なお、我々の友人である中国と先進諸国との経済協力関係が、現在、かつての関係と若干様相を異にしているのは残念なことであります。我が国としては、アジアに位置し、中国と長い交流の歴史を持つという立場を踏まえ、中国と各国及び国際機関との関係が双方の努力により速やかに旧に復することを強く希望しております。」と発言している。

御指摘の円借款について、橋本大蔵大臣が内閣総理大臣若しくは外務大臣との協議又は閣議若しくは閣僚懇談会において発言したという記録や橋本大蔵大臣が事務当局へ検討を指示したという記録は見当たらない。

三の3について

円借款の正式要請については、途上国政府から外交ルートを通じて在外公館等我が国政府に対して公式文書をもって行われることとされており、大蔵大臣が中国政府から正式要請を受ける立場にはない。

なお、御指摘の円借款に関する中国政府関係者から当時の橋本大蔵大臣に対する非公式要請は、次のとおりである。

(一) 第二十三回アジア開発銀行年次総会時の平成二年（千九百九十年）五月三日において、橋本大蔵大臣は、李貴鮮中国人民銀行行長から、国際復興開発銀行及びアジア開発銀行の対中融資再開並びに第三次円借款の開始について日本の理解を求める旨の要請を受けている。

(二) 第四十五回国際通貨基金、国際復興開発銀行年次総会時の平成二年（千九百九十年）九月二十五日において、橋本大蔵大臣は、王丙乾財政部長から、いわゆる天安門事件以来の厳しい環境の中で第三次円借款についての弾力的な対応を求める旨の要請を受けている。

四の 1 について

平成八年一月十九日である。

四の 2 について

平成八年十二月十六日である。

四の 3、4 及び 6 について

御指摘の帰化許可申請事件の具体的内容については、プライバシー等の問題もあるので、答弁を差し控
えたい。

四の 5 について

出入（帰）国記録は、プライバシー等の問題もあつて、非公開を原則としているので、答弁を差し控
えたい。

別添資料

ベチューン医科大学機材整備計画に関する事前調査報告書及び基本設計調査報告書の関連部分

(目次)

- 一 事前調査報告書（平成二年（千九百九十年）二月、国際協力事業団刊行）における関連部分
 - 1 調査団の構成と日程（事前調査報告書二頁及び同三頁）
 - 2 面会者一覧表（事前調査報告書四頁及び五頁）
- 二 基本設計調査報告書（平成二年（千九百九十年）八月、国際協力事業団刊行）における関連部分
 - 1 調査団の構成（基本設計調査報告書九十三頁）
 - 2 調査日程（基本設計調査報告書九十四頁及び九十五頁）
 - 3 面談者リスト（基本設計調査報告書九十六頁及び九十七頁）

一. 事前調査報告書（平成2年2月、国際協力事業団刊行）における関連部分

1. 調査団の構成と日程（報告書2～3頁）

調査団構成

- | | | |
|----------|--------|-----------------------|
| ・ 団長 | 北川 定謙 | （厚生省病院管理研究所長） |
| ・ 病院計画 | 鈴木 幸雄 | （厚生省保健医療局国立療養所課 課長補佐） |
| ・ 医療機材計画 | 大場 正巳 | （北里大学教授） |
| ・ 無償資金協力 | 下田 五郎 | （外務省無償資金協力課 課長補佐） |
| ・ 通訳 | 高良 さとみ | （国際協力サービスセンター） |

調 査 日 程 表

No.	月 日	日	行 程	調 査 内 容
1	12/6	水	成田→北京 (NH905)	J I C A 中国事務所との打合せ
2	/7	木	北京	日本大使館表敬・打合せ 衛生部、経貿部表敬・打合せ
3	/8	金	北京	衛生部との打合せ 中日友好病院視察
4	/9	土	北京→長春 (CA6144)	ベチューン医大関係者打合せ 吉林省経貿庁表敬
5	/10	日	長春	団内打合せ
6	/11	月	長春	ベチューン医大関係者との協議
7	/12	火	長春	ベチューン医大視察
8	/13	水	長春	ベチューン医大関係者との協議 ミニッツ署名
9	/14	木	長春→北京 (CA6141)	J I C A 中国事務所報告
10	/15	金	北京 北京→成田 (JL782)	衛生部協議、大使館報告 一北川、鈴木、大場の3氏のみ帰国。 下田、高良の2氏は補足調査
11	/16	土	北京→成田 (NH906)	

2. 面会者一覧表（報告書4～5頁）

在中国大使館	久保田穰	公使
	小嶋高明	参事官
	山口 壯	書記官
	田尻和宏	書記官
	岡田太造	書記官
JICA中国事務所	松谷広志	副所長
对外經濟貿易部	王天策	国際連絡司長
	劉文炸	国際連絡司処長
	張悦光	国際連絡司官員
衛生部	顧英奇	副部長
	宗允孚	外事司長
	趙同彬	外事司副司長
	高	外事司連絡処副処長
	李維平	外事司官員
	周	医務司病院管理处官員
	李	計画財務処官員
白求恩医科大学	劉樹錚	校長 教授
	陳遠耀	副校長 病理教研室教授
	呂美德	副校長 伝染病教研室教授
	趙洪序	副教授 中日連誼医院建設指揮部常務副総指揮
	李海泉	中日連誼医院建設指揮部副総指揮
	趙 延	外事処長
	張曉一	校長弁公室副主任
	葛葆璋	中日連誼医院建設指揮部設備科長
	李 霞	日本語教研室講師（通訳）
	登修竹	外事処副教授
	鄒元植	内科教授 白求恩医科大学日語医学班顧問
	逯殿賦	中日連誼医院建設指揮部総工程師
	戴学強	設備処長

	張惠銘	病理解剖教研室講師
	劉 宝	外事処官員
吉林省	劉希林	人民政府秘書長
	桑逢文	人民政府副秘書長
	瀋伯余	吉林省对外經濟貿易委員会副総工程師
	陳世模	吉林省对外經濟貿易委員会副主任
	呆家琳	吉林省对外經濟貿易委員会外経副処長
	丁士晟	吉林省科学技術委員会主任
	梁吉昌	吉林省外事弁公室副主任
	魯安平	吉林省衛生処副処長
長春市	李 述	副市長
	楊天民	外事弁公室主任
	李村敏	外事弁公室副主任
	朱連元	長春市城郷建設委員会副主任
中日友好病院	楊乘賢	副院長
	曾樹法	外事処長
	蔡福軍	外事処官員

二. 基本設計調査報告書（平成2年8月、国際協力事業団刊行）における関連部分

1. 調査団の構成（報告書93頁）

I-1 基本設計調査時

調査団員名簿

(1) 団長・総括	北川定謙	厚生省国立医療・病院管理研究所所長
(2) 医療行政	鈴木仁一	厚生省保健局医療課
(3) 病院計画	大場正巳	北里大学医学部教授
(4) 無償資金協力	富本幾文	国際協力事業団無償資金協力計画調査部 基本設計調査第一課課長代理
(5) 技術協力	立場正夫	国際協力事業団医療協力部
(6) 中国語通訳	飯村直子	財団法人 国際協力サービスセンター
(7) 医療機材計画（主）	伊澤恭一	株式会社 第一医療施設コンサルタンツ
(8) 医療機材計画（副）	田中克利	株式会社 第一医療施設コンサルタンツ
(9) 設備計画	西岡均	株式会社 第一医療施設コンサルタンツ
(10) 建築計画	織田哲	株式会社 第一医療施設コンサルタンツ
(11) 中国語通訳	岡田美和	株式会社 第一医療施設コンサルタンツ
(12) 調査団員補助	伊澤克彦	株式会社 第一医療施設コンサルタンツ

I-2 ドラフトレポート説明時（基本設計概要説明時）

調査団員名簿

(1) 総括	北川定謙	厚生省国立医療・病院管理研究所所長
(2) 病院計画	八代公夫	北里大学医学部教授
(3) 無償資金協力	富本幾文	国際協力事業団無償資金協力計画調査部 基本設計調査第一課課長代理
(4) 医療機材計画	伊澤恭一	株式会社 第一医療施設コンサルタンツ
(5) 設備計画	西岡均	株式会社 第一医療施設コンサルタンツ
(6) 中国語通訳	岡田美和	株式会社 第一医療施設コンサルタンツ
(7) 調査団員補助	田中克利	株式会社 第一医療施設コンサルタンツ

2. 調査日程（報告書94～95頁）

II-1 基本設計調査時

日数	日 付	内 容	
		官 側	コンサルタント
1	4 / 5 (木)	東京 → 北京	J I C A 打合わせ
2	6 (金)		大使館・経貿部、衛生部打合わせ
3	7 (土)	北京 → 長春	白求恩医科大学と調査日程等の打合せ
4	8 (日)		A) 建設予定地視察 B) 長春 → 瀋陽（鉄道）（立場団員及田中団員）
5	9 (月)		A) 白求恩医科大学協議 B) 中国医科大学視察（立場団員及田中団員）
6	10 (火)		A) 白求恩医科大学協議 B) 瀋陽 → 長春（鉄道）（立場団員及田中団員）
7	11 (水)		白求恩医科大学協議
8	12 (木)		“
9	13 (金)		“ ミニッツ調印
10	14 (土)	午前中付属病院視察 長春 → 北京	午前中付属病院視察 コンサルタントチーム団内 ミーティング
11	15 (日)	団内ミーティング	資料整理
12	16 (月)	大使館・J I C A 報告 北京 → 成田（帰国）	白求恩医科大学協議
13	17 (火)		“
14	18 (水)		“
15	19 (木)		“
16	20 (金)		“
17	21 (土)		“
18	22 (日)		建築計画のみ 長春→北京 団内ミーティング 資料整理
19	23 (月)		白求恩医科大学協議
20	24 (火)		“
21	25 (水)		付属病院視察 長春 → 北京 → 瀋陽
22	26 (木)		瀋陽 → 北京（事故の為 変更）
23	27 (金)		経貿部・衛生部訪問 日本大使館・J I C A 報告 日中友好病院視察
24	28 (土)		資料整理
25	29 (日)		北京 → 成田（帰国）

II-2 ドラフトレポート説明時（基本設計概要説明時）

日数	日 付	内 容 官側及びコンサルタント
1	8 / 2 (木)	東京 → 北京 J I C A事務所打合わせ
2	3 (金)	経貿部表敬、衛生部表敬・協議
3	4 (土)	北京 → 長春 白求恩医科大学と打合せ
4	5 (日)	団内打合せ
5	6 (月)	白求恩医科大学協議
6	7 (火)	”
7	8 (水)	” 、議事録協議・署名
8	9 (木)	長春 → 北京
9	10 (金)	J I C A事務所報告
10	11 (土)	北京 → 成田 (帰国)

3. 面談者リスト（報告書96～97頁）

Ⅲ-1 基本設計調査時

中国側協議参加者名簿

対外経済貿易部	王天策	国際連絡司長
	劉文炸	国際連絡司処長
	張悦光	国際連絡司官員
衛生部	顧英奇	副部長
	宋充孚	外事司長
	趙同彬	外事司副司長
	高細水	外事司連絡処副処長
	李維平	外事司官員
	申子瑜	医政司官員
	胡曉蒙	外事局通訳
白求恩医科大学	劉樹錚	校長 教授
	陳遠耀	副校長 病理教研室教授
	呂美德	副校長 伝染病教研室教授
	趙洪序	教授 日中聯誼医院建設指揮部常務副総指揮
	李海泉	日中聯誼医院建設指揮部副総指揮
	趙 延	外事処長
	張曉一	校長弁公室副主任
	葛葆璋	日中聯誼医院建設指揮部副総指揮
	李 霞	日本語教研室講師（通訳）
	劉志貴	外事処科長（通訳）
	鄒元埴	内科教授 白求恩医科大学日語医学班顧問
	逯殿賦	日中聯誼医院建設指揮部総工程師
	載学強	設備処長
	金松傑	第三病院内視鏡科講師（通訳）
	遲宝荣	第一病院内科講師（通訳）
吉林省	劉 宝	外事処官員
	劉希林	人民政府秘書長
	楊慶才	人民政府副秘書長
	唐茂盛	人民政府副秘書長
	潘伯余	吉林省對外經濟貿易委員会副工程師
	陳世樸	吉林省對外經濟貿易委員会副主任
	呆家琳	吉林省對外經濟貿易委員会外経副処長
	丁士晟	吉林省科学技術委员会主任
	梁吉昌	吉林省外事弁公室副主任
	魯安平	吉林省衛生処副処長
長春市	李 述	副市長
	楊天民	外事弁公室主任
	李村敏	外事弁公室副主任
	朱連元	長春市城郷建設委員会副主任
日中友好病院	李忠金	外事処官員

Ⅲ－２ ドラフトレポート説明時（基本設計概要説明時）

中国側協議参加者名簿

对外經濟貿易部	楊鉄林	經濟貿易部
衛生部	李維平	中華人民共和國衛生部
白求恩医科大学	陳遠耀	副校長 病理教研室教授
	趙洪序	教授 日中聯誼医院建設指揮部常務副總指揮
	鄒元埴	内科教授 白求恩医科大学日語医学班顧問
	李海泉	日中聯誼医院建設指揮部副總指揮
	趙 延	白求恩医科大学外事処長
	劉志貴	外事処科長（通訳）
	葛葆璋	日中聯誼医院建設指揮部副總指揮
	金松傑	第三病院内視鏡科講師（通訳）
	陳嵩齡	中南設計院総工程師
	張曉一	校長弁公室副主任
	逯殿賦	日中聯誼医院建設指揮部総工程師
吉林省	吳亦俠	吉林省副省長
	桑逢文	吉林省秘書長
	孫建有	吉林省經濟貿易委員会主任
	王樹彬	吉林省外事弁公室專家処処長
	潘伯余	吉林省对外經濟貿易委員会副工程師